

# 保護運動実り国史跡に

## 里見氏の稲村城跡と岡本城跡

15世紀中ごろから約170年にわたり安房地方を支配した里見氏の居城だった稲村城跡(館山市稲)と岡本城跡(南房総市富浦町)が18日開かれた文化審議会が国の「史跡」への指定を求める答申を出した。県内にある中世の城跡では本佐倉城跡(酒々井町、佐倉市)に次ぐもの。特に稲村城跡は館山市が道路建設に利用する計画を立てた90年代、保護運動が起り、ルートが変更されたいきさつがある。県や市の史跡に指定されておらず、いきなりの「飛び級」指定で、運動にかかわった関係者の喜びもひとしおだ。【中島章隆】

### 県未指定「飛び級」で

稲村城跡は里見氏の 駅の西方、標高64.8の16世紀前半の居城と見 小高い丘に本丸にあたり、JR内房線九重の主郭跡がある。内房



岡本城跡からは眼下に港の絶景が広がる

とされている。丘陵の北と西の斜面を削り落

### 道路計画に一石投じた高校教諭

### 署名集め地道に整備

と外房、さらに南の白浜方面を結ぶほぼ中間点の交通の要衝。最初に築城した白浜から内陸に向け、次々と居城を移している里見氏のうち第三代

の歴史を教えていた愛沢伸雄さん(60)だ。

稲村城跡の一部が大規模工業団地の造成に伴う市道建設予定地に組み込まれることを知ったのがきっかけ。投書は「道路建設が、里見氏の歴史を観光の主眼にしている館山市当局の手でおこなわれる

としたら、残念なこととし、計画の見直しを「切に希望しております」と結ぶ。

その後、愛沢さんは同僚の教諭らと「稲村城跡を保存する会」を設立し、署名活動を始めた。市議会に史跡化を求める請願書を提出し、最終的に1万人近くから署名を集めた。城跡にも何度も足を運んだ。共有地となっている遺跡周辺の丘に分け入り、草刈りや案内板の設置、周辺地域のガイドマップ作りなどを実行し、遺跡一帯が「ただの丘」ではないことを市民に訴えた。小田原城など県外の史跡を訪ね、意見交換なども精力的に行っている。

として障壁にするなど、敵から城を守るさまざまな工夫が見つかっている。

里見氏ゆかりの人たちで組織する房総里見会の里見香華会長の話

一方、岡本城跡は16世紀後半の本拠とされ、JR富浦駅の北、眼下に豊岡海岸を見下ろす標高約60.8の高台にあり、現在は「里見公園」として親しまれている。里見義頼、義康が明らかにするのを期

親子の居城とされ、水待します。



稲村城の主郭跡で由来を説明する愛沢さん